

柏玉集（後柏原院）

あふぎのかぜ

さ夜まくら蛍飛びきてすずしさや

扇の風の閨のうちまで

蛍

みだれ飛ぶ蛍のかげも行あひの

遣水涼し夕やみのそら

とぶ蛍ひまもとめくるこすの中に

くらきまぎねのみえてまばゆき

難波江

なには人たくや蘆火の打ちしめり
入えの蛍みがくれてみゆ

蛍照水草

水くらきあしまがくれに先みえて
よるの蛍も暮ごとのかげ

蛍似玉

とぶ蛍おのが光の玉により
露や色なきあしの一村

草蛍似露

影たかくみしや蛍もくるよの
空よりくだる草の上の露

螢火透簾

玉すだねまきあげてみん夕つづの
星のまぎれに螢とぶかげ

螢過窓

とぶ螢窓おしひらく夕やみを
空めになしてそふ光かな

雨中螢

飛ぶほたるおのが思ひにはねざらば
哀なるべきよるの雨かな

田辺螢

飛ぶ螢小田のかはづのもろ声に
鳴くにもまさる思ひとをしれ

晩夏蛩

軒ちかき荻の葉ならぬ秋風に
さながらみえて行くほたるかな

「国歌大観」より